

令和8年度

試験名:個別学力検査(後期日程) 【 人間学群 教育学類 】

区 分	標準的な解答例又は出題意図
論述	<p style="text-align: center;"><u>問題</u></p> <p>次の文章を読み、以下の二つの問に対して解答しなさい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 20px; margin: 10px auto; width: 80%;"><p style="text-align: center;">(この部分は、著作権の都合により公開できません)</p></div> <p>【出典】丸山英樹「ESD の深い次元 公教育の「これまで通り」から構成される学習へ」佐久間亜紀・石井英真・丸山英樹・青木栄一・仁平典宏・濱中淳子・下司晶編『教育学年報 14 公教育を問い直す』世織書房、2023 年、89-91 頁。(一部改変)</p> <p>【問1】 文章中の下線部「ESD は高度に文脈化され、教師も学習者であり、しかしすべての学習者に同様の学習成果が保証されない」とは、どのようなことか、200 字以内で説明しなさい。</p> <p>【問2】 「これまで通り」を前提とした議論の抱える問題点や現実問題としての環境悪</p>

化について教育する機会を見落とさない ESD を実践するために、日本の初等・中等教育で児童・生徒に対してどのような教育を行う必要があるのかについて、800 字以内で論じなさい。

出題の意図

後期日程の試験では、論述により応答性、論理性等を評価することになっている。本問題においては、ESD（持続可能な開発のための教育）に着目し、高度に文脈化された ESD からの公教育の捉え直しについて論じている文章を読ませ、文章の内容に関連する二つの問いに論述形式で解答させることによって、問いに対する応答性と論述における論理性を評価する。

【問 1】は、「ESD は高度に文脈化され、教師も学習者であり、しかしすべての学習者に同様の学習成果が保証されない」とはどのようなことか、この文章の前の部分で説明されていることを理解し、要点をまとめつつ説明することを求めている。

(解答例)

ESD とは、学習者個人が自発的に行う、偶発的に見られるインフォーマル学習やコミュニティで展開される活動、あるいは学習空間であり同時に自身も一部である文化風土や日常の経験など、教育と見なされないものも含めた高度に文脈化された私たちの営為を含むもので、画一的に提供される公教育に限らないものである。したがって、ESD の学習成果も、学習者と教育者の両者の個別の文脈に依存した多様なものとなるということ。

【問 2】は、文章を踏まえて、日本の初等・中等教育で、どのような ESD を行う必要があるのかについて論じさせる問題であり、解答によって、教育への関心、および、〈応答性〉と〈論理性〉を兼ね備えているかを判断しようとするものである。

著者は、文章の前半で、サステナビリティの多様な捉え方を認め合うだけの形式的平等主義に陥らず、個別具体的な枠組みで ESD を議論する必要性、そして続く文章では、ESD 研究において、知識の共創を奨励し、持続可能な開発の概念に関する複数の視点と批判的対話を奨励する、多元的・解放的・取引的な教育形態が求められていることに言及している。そして、ESD 実践の際には、学習者と教師の個別の文脈と妥当性を考慮しつつ、サステナビリティを担保・向上させる別様の教育を価値化できる研究の展開に着目している。このような著者の考えを踏まえると、例えば、国際的に共通の目標となっている SDGs に関わる現代的な諸課題を題材として、サステナビリティに対する学習者の多様な捉え方のみならず、その多様な捉え方を形作る基盤となっている学習者個人の公教育内外の学習や経験を、学習者どうし、そして、学習者と教師とで理解しあい、認め合った上で、現実問題としての地球規模課題や地域課題の解決に向けた批判的対話を行い、多様な他者と協働して新たな価値や知識を共創するための解決策を考えるような活動を取り入れた教育を行うことを、具体例を示しながら論じることが、解答において期待される。